

JAEF REPORT

平成29年7月5日

年4回発行(1,4,7,10月)

(公財)日本自動車教育振興財団 活動報告

【目次】

- ◆ 理事会・評議員会を開催
- ◆ 平成29年度事業計画説明会を開催
- ◆ 平成29年度JAEF研修会の参加者を募集

- ◆ 40都道府県の研修会(217件)に講師を派遣
- ◆ 平成29年度自動車技術教育用教材提供へ87校から応募

理事会・評議員会を開催

5月26日に第14回理事会が芝パークホテルにて開催され、平成28年度事業報告・決算及び第6回定時評議員会の開催内容等が承認された。それを受け、6月12日に第6回定時評議員会が芝パークホテルで開催され、平成28年度事業報告・決算報告及び評議員の一部選任並びに改選期に伴う理事・監事の選任が承認された。また、同評議員会終了後に第15回理事会が開催され、代表理事及び業務執行理事等が選定された。

財団は平成28年度事業報告において、「社会と自動車のより良い関係を形成するため、高等学校における自動車及び交通に関する教育の支援事業を行った」としている。

具体的には、1つ目の技術教育支援事業では、28年度公募対象校(秋田県をはじめとする18県275校の工業高校など)へ、実習用エンジンなど29種類の提供教材を公募案内したところ、同対象地域の前回応募実績(平成25年度:86校)を大きく上回る96校からの応募があり、96校すべての高等学校に教材提供を実施した。

2つ目の研修事業では、交通・環境・交通安全・自動車技術をテーマとして、先生方を対象としたJAEF研修会(財団主催の研修会)を東京、神奈川、愛知、広島の4地域で4回開催し、134名の先生方に参加いただいた。研修内容についても参加された先生方から高い評価をいただくことができた。また高等学校などへの講師派遣については、関係諸団体のご協力により、派遣件数298件・受講人員115,297名と、ともに過去最多となった。

3つ目の調査研究事業では、国内外の交通調査(国内3回、海外2回)を実施し調査内容をまとめると共に、それを基にした広報誌向けの特集記事の作成・掲載や関係者への調査報告を行った。また、副教材『自転車の交通安全—自転車の車道走行が安全なわけ』を作成し、生徒指導担当の先生方への提供を開始した。

そして最後に普及啓発事業では、全国約5,900校の高等学校に広報誌の提供を重ねると共に、ホームページやニュースリリースなどにより、高校やマスコミへのタイムリーな情報発信を行い、自動車教育の輪をさらに広げることができた。

…5月26日、6月12日

財団運営



▲第6回定時評議員会の様子



▲定時評議員会後の懇親会の様子

評議員の一部選任に関しては、3名の評議員(小山公央氏、中谷良平氏、宮本晃雄氏)が選任され、その後任に3名の評議員(仁井田孝春氏、柳田昌宏氏、今西啓之氏)が選任された。

また、理事・監事の選任に関しては、11名の理事と2名の監事が選任された。理事では3名(小枝至氏、張富士夫氏、花田隆夫氏)が選任され、新たに3名の理事(内山田竹志氏、川口均氏、有賀潔氏)が選任された。また、内山田竹志氏が理事長に、川口均氏が副理事長、上橋義弘氏が専務理事、有賀潔氏が常務理事に選定され、財団は新たなスタートを切ることにした。

なお、平成28年度の事業報告の概要及び理事・監事・評議員の新名簿は、添付別紙をご参照ください。

INFORMATION

7~9月予定

- 審査委員会開催、平成29年度教材提供校を決定 8月4日
- JAEF研修会を開催 7月~10月
- 29都道府県の研修会(62件)に講師を派遣予定 7月~9月
- 自動車技術教育イベントを支援 8月
- 海外交通事情調査(米国がフォロ7州)を実施 9月

平成29年度事業計画説明会を開催

…6月13日

普及啓発

財団は6月13日、平成29年度事業計画説明会を日本自動車会館くるまプラザにて開催し、自動車、損保関連マスコミ関係者等11名が参加した。

財団より平成28年度事業報告及び平成29年度事業計画を説明した後、質疑応答、意見交換を行った。参加者からは、「(自動車業界に従事する)人材の確保に更に寄与すべく、先生のみならず、生徒と接する講習会等の機会を増やした方がよい」、「高校生が通学で利用する機会のある自動二輪車についても、教育支援メニューを強化してはどうか」等との意見が寄せられ、たいへん有意義な会合となった。



▲事業計画説明会の様子

平成29年度JAEF研修会の参加者を募集

…5月29日～

研修

財団は、平成29年度JAEF研修会の募集について、全国の高等学校約6,000校、および過去2年間のJAEF研修会参加者約120名へ案内を行った。本年度は7月から10月にかけて、東京、栃木、愛知にて合計4回開催する。

JAEF研修会は、「交通」「環境」「交通安全」などをテーマとして、全国の高校教諭を対象に実施する財団主催の研修会である。平成4年のスタート以来、関係団体・企業のご協力により、各界の専門家による

講演会と施設見学や体験実習などをセットにして行い、参加された先生方から高い評価を得ている。その結果、昨年度までの先生方の参加者累計は4,000名を超えている。また同研修会は今年度も文部科学省、開催都県の教育委員会および全国高等学校長協会、全国工業高等学校長協会、全国総合学科高等学校長協会、日本私立中学高等学校連合会、全国公民科・社会科教育研究会の後援・協賛を得ており、財団は全国の高等学校の先生方に積極的な参加を呼びかけている。



▲平成28年度第2回JAEF研修会・体験試乗の様子



▲平成28年度第3回JAEF研修会・講演の様子

【平成29年度JAEF研修会開催計画】

	日程及び会場	講演テーマ・見学施設・実習体験	募集人数
第1回	7月28日(金) 東京都港区 日本自動車会館 くるまプラザ会議室	(講演)「自転車・歩行者から見た道路交通と安全」 (講演)「自転車活用推進法の施行で日本の未来予測」	40名
第2回	8月1日(火) 栃木県芳賀郡 ツインリンクもてぎ	(講演)「効果的な交通安全教育手法」 (実習)専用トレーニングコースでの安全運転トレーニング実習	40名
第3回	8月9日(水) 愛知県名古屋市 トヨタ産業技術記念館	(講演)「トヨタの最先端安全技術について」 (見学)トヨタ産業技術記念館	40名
第4回	10月27日(金) 東京都江東区 ホテルサンルート有明 東京ビックサイト	(講演)「2020年、人工知能は車を運転するのか」 (見学)第45回東京モーターショー見学	100名

40都道府県の研修会(217件)に講師を派遣

・・・4月～6月

研修

財団は、自動車の整備技術やハイブリッド技術などの「自動車技術」に関する研修メニュー、および「環境技術」「交通技術」「交通安全」に関する研修メニュー（計15種類）を用意し、高等学校や教育委員会からの要請を受け、専門の講師を派遣している。今年度の4月～6月は、40都道府県（217件）の研修会に専門の講師を派遣し、合計87,474名が受講した。

今年度の研修会217件の内、「交通安全」に関する講師派遣要請が211件に上った（「自転車・歩行者から見た道路交通と安全」107件、「危険予知による交通安全」49件、「自転車を取り巻くリスクとその責任」34件、「交通事故とその責任」13件、「夜間の交通安全対策」8件）。その他技術研修会に関する要請が6件

（「トヨタ・ハイブリッド車について」4件、「日産・電気自動車について」1件、「三菱・特別技術研修」1件）であった。

「交通安全」に関する講師は、日本自動車連盟支部および日本損害保険協会支部に、また技術研修会の講師は、埼玉トヨペット、西九州トヨタ自動車、旭川トヨタ自動車、日産プリンス福岡販売、および三菱自動車工業にご協力をいただいた。

いずれの研修会の参加者からも大変高い評価をいただくことができた。

ご協力をいただいた関係団体・企業ならびに各県の推進協議会の皆様には、紙面をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。



▲叡明高等学校での交通安全研修会



▲北海道北見工業高等学校での交通安全研修会

【講師派遣実績(平成8年度～平成28年度)】



財団は、技術教育支援事業の一環として、本年度対象14都道府県（下記参照）で自動車技術教育を実施している297校へ6月初めに応募要項を送付した。締切の6月30日までに87校から応募があり、応募率は29.3%であった。最終的な提供校および支援内容は、8月4日に開催する審査委員会（小山実委員長）で、厳正な審査・選考により決定する予定である。

<応募状況>

本年度の応募校数は87校で、同地域で募集した3年前の87校と同じであった。応募回数では以前に提供したことのある学校からの応募が81校に対して、初めての応募が6校（6.9%）であった（前年9.4%・前々年5.9%）。本年度も再応募が高く、一度活用していただいた高校で教材提供活動が認知されだしていると推測される。

<教材別応募状況>

教材別では初級教材（59.8%）、上級教材（21.8%）、視聴覚教材（10.3%）、中級教材（8.0%）となった。

各学校は、教材提供メニューの中から第3希望まで選定して応募することとなっているが、第1希望の応募状況を見ると、分解組立用汎用エンジンが前年度同様1位で28校と32%を占める人気教材であった。2位は前年同様実習用工具セット11校であった。3位はエンジン実習装置9校、4位は分解組立用電子制御エンジン(小型車)7校であった。

なお、本年度も自動車技術教育の維持・向上を図るべく、学校の希望も踏まえながら、説明模型（4サイクルガソリンエンジン）の追加や実車（中古車）の選択肢としてハイブリッドカーの追加など提供メニューの見直しなどを行い、視聴覚教材から上級教育用教材まで広く提供メニューを用意し対象校へ案内を行った。

学習区分	教材番号	教材名	提供数量
視聴覚教材	1	自動車の基礎・電気	1セット (DVD10枚組)
	2	自動車機械・基礎	1セット (CD3枚組)
	3	エンジンの作動原理	1セット (CD4枚組)
	4	駆動・制動装置	1セット (CD3枚組)
	5	動力伝達装置	1セット (CD2枚組)
	6	走行装置とかし取り装置	1セット (CD5枚組)
	7	ディーゼルエンジン燃料装置	1セット (CD3枚組)
	8	自動車の電気・電子技術	1セット (CD3枚組)
	9	自動車の新技術	1セット (CD3枚組)
	10	eTOOLBOXハイブリッド自動車編	1セット (CD3枚組)
	11	動く掛図教材 (4サイクル・2サイクル)	1セット (2種類)
	12	説明模型 4サイクルガソリンエンジン(EFI)	1台
初級教材	13	分解組立用エンジン (汎用・126cc)	4台
	14	分解組立用キャブレターエンジン	2台
	15	分解組立用電子制御エンジン (軽自動車)	4台
	16	分解組立用電子制御エンジン (小型車)	4台
	17	実習用工具セット	4セット
	18	実習用工具トルクレンチ	4個
	19	急速充電器	1台
	20	低床型手動ジャッキ足踏付 2t	1台
	21	エンジンスタンド(簡易型)	4台
中級教材	22	エンジンテスターセット	1セット
	23	トランスミッション	2台
	24	電子ブロック実験装置	1セット
	25	燃料電池実験キット	1セット
	26	ビデオスコープ	1台
	27	電装品 (灯火器) シミュレータボード	1セット
上級教材	28	実車 (中古車)	1台
	29	エンジン実習装置	1台
	30	スキャンツール (外部故障診断機)	1台



分解組立用エンジン



エンジン実習装置

【平成29年度公募対象地域と応募校数】

<公募地域> 14都道府県

北海道(11)、栃木県(7)、埼玉県(10)、東京都(15)

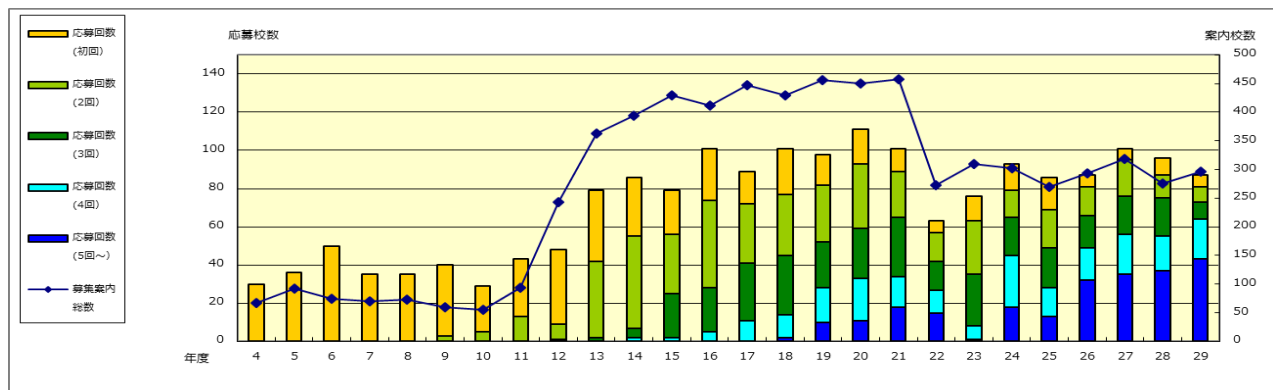
千葉県(3)、神奈川県(6)、富山県(1)、石川県(3)

福井県(6)、鳥取県(0)、岡山県(9)、島根県(0)

広島県(3)、山口県(13) ()内の数字は県別の応募校数

計12都道府県 応募校数 87校

【応募校数の推移(平成4年度～平成29年度)】



年度(平成)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
応募校数	30	36	50	35	35	40	29	34	49	84	86	79	101	89	101	97	111	101	63	76	93	86	87	101	96	87

※平成23年度応募校数には平成22年度公募予定だった宮崎県の5校が含まれる